

ファイナル演習問題

PartⅧは、東大、京大、阪大、九大、名大等、最難関と言われる大学の入試問題がピックアップされています。ここまで学んだ知識・テクニックを総動員して、これら10題の問題に取り組んでみてください。

1. Seriously concerned about this trend, the prosecution appealed to the Supreme Court five robbery-murder cases in which death sentences had been reduced to life imprisonment by the high court.

(横浜国大)

《語句》 (be) concerned about A: Aについて懸念(心配)する

trend: 傾向

prosecution: 検察

appeal A(事件) to B(裁判所): AをBに控訴[上告]する

the Supreme Court: 最高裁判所

robbery-murder case: 強盗殺人事件

death sentence: 死刑(宣告)

life imprisonment: 終身刑

reduce A to B: AをBに減らす

the high court: 高等裁判所

【解答&解説】

全体構造は

p.p.~, (S)+(V)...

⊕p.p. とは「過去分詞」のこと。

となっており、これは分詞構文ですね。

⊕LESSON BOOK REVIEW Rule-37 を参照せよ。

Seriously concerned about this trend, the prosecution appealed..

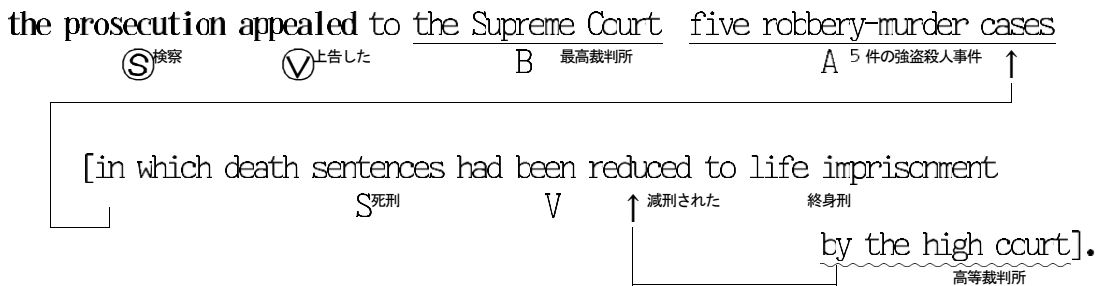
p.p.

Ⓢ

Ⓥ

本問は前後関係から、文頭に分詞句は「理由(～して、～なので)」で訳せばいいでしょう。つまり「このような傾向を深刻に懸念して[したので]」くらいの訳でいいでしょう。

問題は the prosecution からの主節部分です。全体の構造分析図は以下のようになります。



難しかったのは、本来 appeal A to B となるべき形が appeal to B A と語順が変化[移動]してしまっていた点です。これを読み解く方法については Part VI 5. で紹介しましたね。

「V+(前)+A(名)」という構造の後に、S・O・Cといった特定の役割を持たない「名詞」を発見したら、「S+V+M+O」型の語順変化ではないかと疑ってかかってみる

こんなルールでした。

appealed to the Supreme Court five robbery-murder cases

V (前) (名) (名)

と、to という前置詞の直後に2つの名詞が並ぶ構造になっており、five~cases には文中での役割が見当たりません。ここから先程の語順変化を見抜かなければならなかったのです。

これさえつかめたら、あとは(語句さえわかれば)簡単でしたね。

【全訳】

「このような傾向を深刻に懸念して、検察は高等裁判所によって死刑が終身刑に減刑された5件の強盗殺人事件を最高裁判所に上告したのだった」

2. ①Characteristically, the child moves in short bouts of no more than a few seconds.
 ②He stops between bouts of similar brief periods. ③Most of his walking time is spent drawing nearer to or farther from the mother. ④Objects and events in the environment do not appear to affect the way the child moves. ⑤The child does not necessarily move away from the mother because he is attracted by an object nor return to her in flight from an object.

(大阪大)

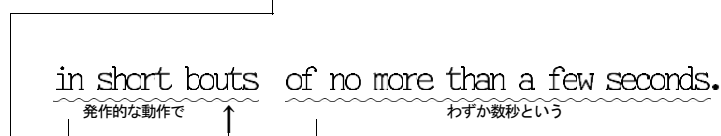
《語句》 characteristically:特徴的に、典型的に
 bout:(活動のひと)区切り、発作的な動作
 no more than: = only
 second:秒
 spend A(時間・金) doing~:Aを~するのに使う、費やす
 objects:物
 affect:影響を与える
 in flight:逃げて

【解答&解説】

①

PartIV 10. で紹介したルールを利用して、文頭の Characteristically を characteristic と形容詞化し、①を仮主語構文に変換してみます。

⇒ It is characteristic that the child moves



そうすると①は、「子供がわずか数秒という発作的な動作で動くというのは(子供にとって・に関して)特徴的なことである」と訳せます。

②

構造分析図です。

He stops between bouts of similar brief periods.

⑤ (V) ↑ □ □ ↑ □ □

そうすると②は、「子供は、同じような短い間の発作的動きの合間には立ち止まる」と訳せます。

③

ここは nearer to or farther from の部分をきちんと分析し、読み取れたかがポイントです。

全体は spend A doing~ の受け身で「Aは~することに費やされる」となりますね。

Most of his walking time is spent

⑤ ↑ □

(V)

drawing { nearer to
or
farther from } the mother.

構造分析図でわかるように、near to と farther from が or によって並列され、共に the mother をその目的語に取っていたのでした。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-11, Rule-12 を参照せよ。

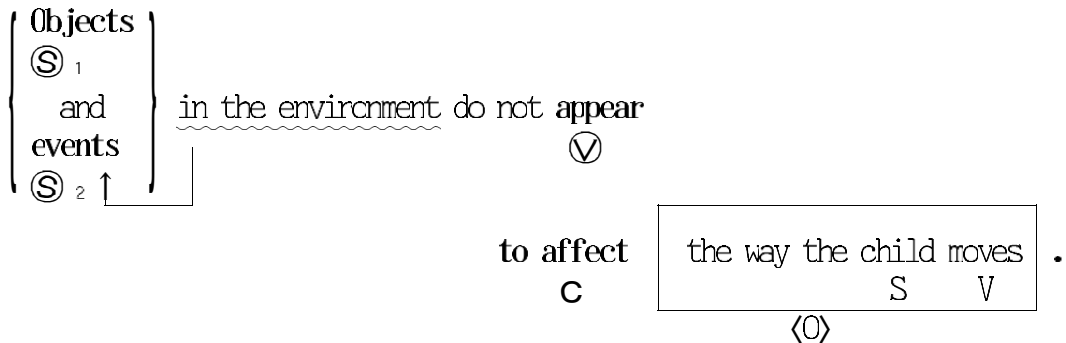
それがわかれば「S+V to ~」型、「S+V from ~」型の類推法から draw (nearer) to the mother、draw (farther) from the mother の意味を類推することができます。

📖 LESSON BOOK REVIEW 64~66ページ を参照せよ。

そうすると③は、「子供の歩く時間のほとんどは、母親へ近づいたり、離れたりに費やされる」と訳せます。

④

まずは構造分析図を示してみましょう。



V(動詞)となっている appear は「現れる」ではなく、ここでは「～のように見える」という意味ですね。appear は後ろに(補語として)不定詞や形容詞・分詞を取る場合、「～のように見える」という意味になるのでした(Part VI 7.を参照せよ)。the way ~ moves までは affect の目的語になっています。the way S+V~ は S・O・Cや前置詞の目的語になる場合、「～の仕方[方法]」「どのように～「様(子)」などと訳すのでした。

📖LESSON BOOK REVIEW 84ページ(注4)を参照せよ。

そうすると④は、「周囲の物や出来事は、子供がどのように動くかということ[子供の動き方]に影響を与えていないかのように見える」と訳せます。

⑤

まず文頭から object までを考えてみましょう。1つ目のポイントは not necessarily。この部分否定を読み取ることができたかです。この部分否定を丸暗記不要でマスターする方法を紹介しましょう。

部分否定とは「～というわけではない」と訳すもののことですが、どういう場合にこれが起きるかということがわかっているならば、部分否定の表現をすべて暗記する必要はありません。では、それはどういう場合かという、と、「例外がない(例外を認めない)ような形容詞・副詞(「すべて」「完全に」「いつも」「必ず」など)に not がついたとき」に起きる(つまりその場合に「～というわけではない」という意味がつけ加わる)のです。

📖LESSON BOOK REVIEW P48 Rule—8 を参照せよ。

necessarily(必ず) はまさに例外を認めない副詞です。not necessarily は「必ずしも～というわけではない」と訳さなければいけません。そうするとここまでは「子供は必ずしも母親から離れるというわけではない」となります。

2つめのポイントは because。この because は「というのは～だからだ」等と訳してはいけません。否定文の後の because は「～だからといって」という意味になることがあるのです。

(ex) You must not be ashamed because you are poor.

貧乏だからといって恥じてはならない

You must not despise a man simply[just, only] because he is poor-looking.

単に外見が見ずばらしいからといって、人を軽べつしてはいけない

ただし、否定文と共に用いられる because の全てが、そのような意味になるわけはありませんから注意してください。

(ex) I don't like him, because he is not clever.

私は彼が好きではありません。なぜならば彼は頭が良くないからです

上の英文の because は、否定文と共に使われていますが、通常の「なぜならば～」 「というのは～だからだ」という意味ですね。この意味(「～だからといって」)になる because の特徴は、以下の2点です。

(1) because の前にカンマ(,)が置かれない

(2) 「(ただ)単に」という意味の just, simply, merely などの副詞が because の直前に付くことが多い(必ずではない)。

本問は、否定文の後にあり、かつ because の直前にカンマがないところから、この「～だからといって」という意味を(because に)読み取るわけです。ではここまでの訳をまとめてみましょう。

「子供がある物に注意を引かれているからといって、必ずしも母親から離れる(という)わけではない」

次に nor から最後までですが、この nor は「～もまたない」という意味の接続詞で and + not で書き換えられます。

⇒ and he does not return to her in flight from an object

こうやって書き換えてしまえば、あとは(語句さえわかれば)訳は簡単ですね。こんなふうになります。

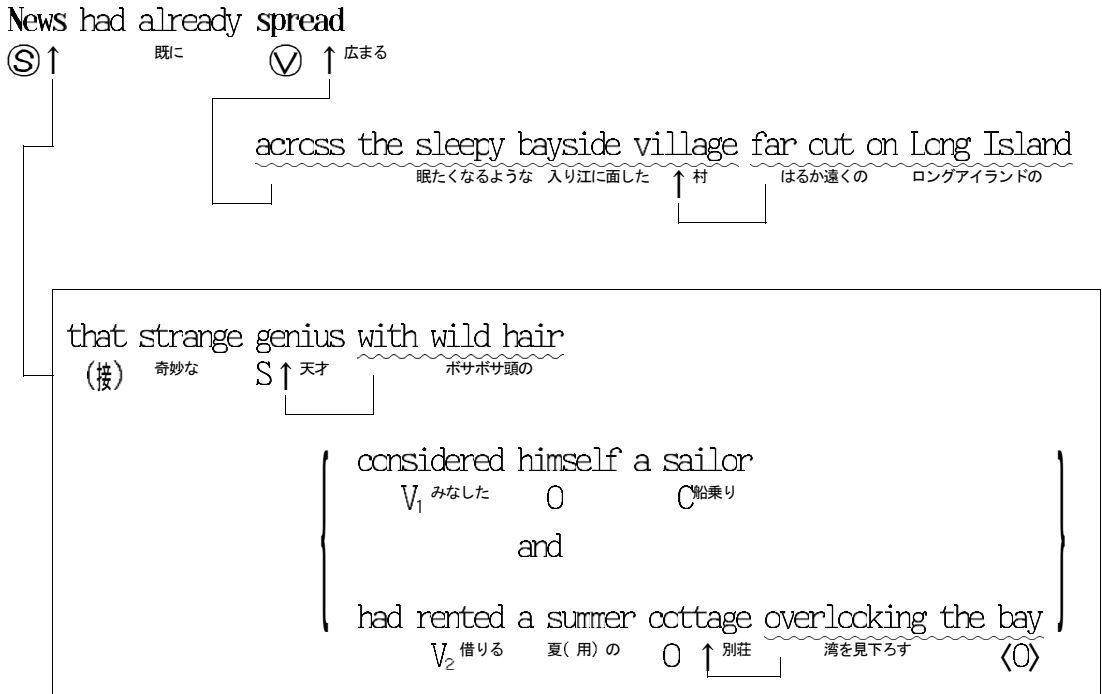
「そしてある物から母親の所に逃げて戻ってくるわけでもない」

【全訳】

「子供がわずか数秒という発作的な動作で動くというのは(子供にとって・関して)特徴的なことである。子供は、同じような短い間の発作的動きの合間には立ち止まる。子供の歩く時間のほとんどは、母親へ近づいたり、離れたりするのに費やされる。周囲の物や出来事は、子供がどのように動くかということ〔子供の動き方〕に影響を与えていないかのように見える。子供がある物に注意を引かれているからといって、必ずしも母親から離れる(という)わけではない。そしてある物から母親の所に逃げて戻ってくるわけでもない」

②

構造分析図をまず示してみましょう。



最大の難所は、英文後半の **that節**が、主語の **News** にかかる同格節だったことに気付いたかどうかです。つまり②は、「that以下という知らせが既にacross以下に広まっていた」というふうに訳をまとめます。

この(that節が Newsを修飾する同格であるという)見極めの手順ですが、まず that節内が完全な文であることから、that が接続詞だとわかります。

☞ LESSON BOOK REVIEW Rule-9 を参照せよ。

次に接続詞の that が導く、いわゆる that節の可能性について考えて見るのです。

この英文で that節がS・O・C、あるいは副詞節になっているとも思えません。

☞ LESSON BOOK REVIEW 83ページを参照せよ。

そこで同格の that の可能性が頭に浮かんだかが成否の分かれ目となります。

同格の that を後ろにとれる名詞は以下の2種類と決まっています。

1. 「思考・感情」「認識」「発言」を表す名詞。☞要するに「言う」「思う」「知る(わかる)」から派生した名詞。
2. 「事実(真実・証拠など)」「情報(報告・うわさなど)」「機会・可能性」「命

令(要求・提案など)要求」等を表す名詞。

そして時に先行するこれらの名詞と(同格の)that節は、離れ離れになる場合もあるので、その場合は注意が必要なのです。

そこで文頭の News が「情報」を表す名詞であることから、その可能性はないかとこれにかけてみるのです。するとうまく訳がはまるわけです。

②全体はこんなふうになります。

「ロングアイランドのはるか遠くの、この眠くなるような入り江に面した村中に、ボサボサ頭の奇妙な天才が自分を船乗りと考えて、湾を見下ろす夏の別荘を借りたというニュースが既に広まっていたのだった」

【全訳】

「アルバート・アインシュタインが¹⁹³⁹年の7月に初めてロスマン百貨店にやってきたとき、オーナーのディビッド・ロスマンはすぐに彼が誰だかわかった。ロングアイランドのはるか遠くの、この眠くなるような入り江に面した村中に、ボサボサ頭の奇妙な天才が自分を船乗りと考えて、湾を見下ろす夏の別荘を借りたというニュースが既に広まっていたのだった」

4. ①Feminists assert that women are still discriminated against in society and seek the end of that discrimination. ②They attack traditional male attitudes to women which suggest that women need protection. ③They are critical of the general tendency in society for women to be seen as dependent on or secondary to men.

(学習院大)

《語句》 feminist:男女同権論者

discriminate against A: Aを差別する

seek: ~を求める ☞活用は seek - sought - sought.

traditional: 伝統的な、従来の

male: 男性の ⇔ female

attitude: 態度、(ものの)考え方

protection: 保護

be critical of A: Aに批判的な

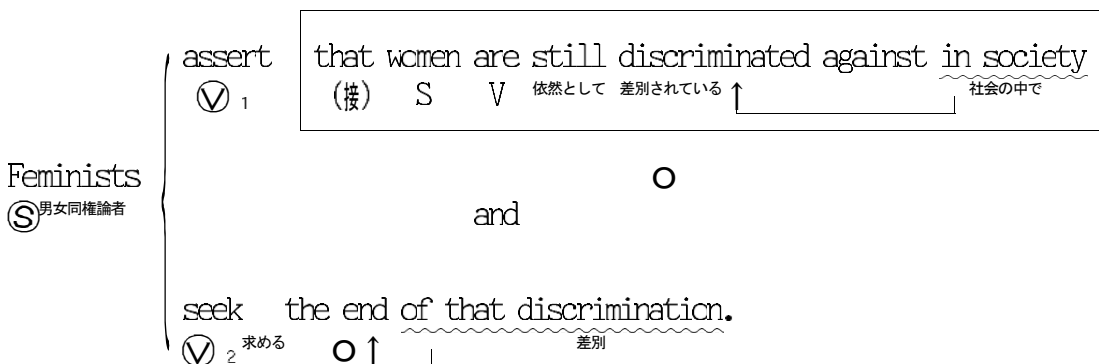
(be) dependent on A: Aに依存している

(be) secondary to A: Aに従属している

【解答&解説】

①

まず以下に構造分析図を示してみましよう。



assert の意味の類推については LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.(1) が役立ちます。

「SVO」構文で、「O」がthat節だった場合、「V」の意味は「言う」「思

(みなす・考える) 「知る(分かる)」のいずれかである。

本問は「言う」と訳せば問題ありません。

會實際 assert は「主張する」という意味で、これは「声高に"言う"」ことだ。
それからこのルールの例外となる動詞に、以下のようなものがある。

①deny that S+V～「～でないと言う」

(ex) He denies that he is the criminal.

彼は自分は犯人ではないと言っている

②doubt that S+V～「～でないと思う」

=don't think that S+V～

(ex) I doubt that he actually solved the problem.

彼が本当にその問題と解いたとは思えない

③ensure that S+V～「確実に～するようにする、～を保証する」

(ex) I cannot ensure that he will be here today.

彼が今日来るとは保証できない

④see that S+V～「～するよう取り計らう、気をつける」

=make sure that S+V～

(ex) See that all the doors are locked.

全部のドアにかぎをかけるようにしなさい

會上は see to it that S+V～ の to it が省略されたもの。ちなみに
see that S+V～ で「～だと分かる(知る)」という意味になることもある
るので注意。

(ex) I see that you are right. 君が正しいことはわかるよ

I saw in the paper that the candidate was defeated in the
election.

私はその候補が選挙で敗れたことを新聞で知った

⑤pretend that S+V～「～のふりをする」

(ex) He pretended that he was studying.

彼は勉強しているふりをした

⑥prefer that S+V～「～を望む」

(ex) I'd prefer that she should leave now.

彼女には今出発してもら方がいい

⑦forget[remember] that S+V～「～ということを忘れる[思い出す(覚えている)]」

(ex) I just remembered (that) I had been there with her.

彼女とそこに行ったことがあるのをちょうど思い出した

⑧「～を要求する、求める」という意味になる場合の require, demand等。

會もちろん「要求する」型も「言う」型で訳せることもある。My health requires that I take (shuld) a long rest. は「私の健康は、私が長期休暇をとるべきだと言っている → 健康を考えて長期休暇をとらないといけない」と訳せる。

the end of that discrimination の of は目的格とみなし

⇒ the end that discrimination そのような差別を終わらせる

(他) ○

と、「他動詞+目的語」の形に(頭の中で)変換して読んでみるといいでしょう。

そうすると①は、「男女同権論者は、女性は依然として社会の中で差別されていると言い[主張し]、そのような差別を終わらせる[差別の撤廃]を求めている」と訳せます。

②

ここは、関係代名詞の which の先行詞の特定がポイント。先行詞は women ではなく traditional male attitude です。ここではその判断の決め手は文脈となります。このように、**関係詞節の先行詞は必ずしも直前の名詞とは限らない**ことが英文中では時に見られます。先行詞の決定は本問のように文脈判断によることもあります。数が決め手となることもあります。以下の例文を見てください。

(ex) Jack is the only one of my friends that is talented.

ジャックは私の友人のうちで才能のあるただ一人の人です

この英文中の関係詞節(that is talented)の先行詞は the only one です。my friends でないとわかる根拠は that の後の is です。もし my friends が先行詞なら、be動詞は(現在時制なら) are となるはずだからです。

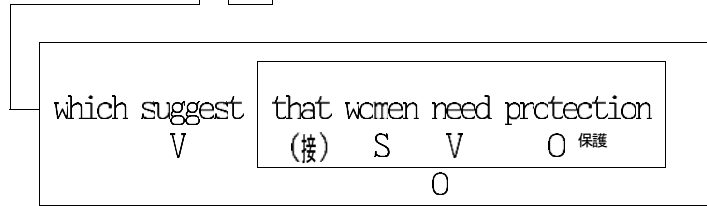
以下に②の構造分析図を示してみましよう。

They attack traditional male attitudes to women

㊸ ㊹

伝統的な男性の態度

○ ↑ ↑



それから suggest ですが、ここは「提案する」では意味が通じません。「示唆する」という意味になります。ただそれがわからなくても **LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.(2)** にこうあります。

「SVO」構文で、

1. 「O」がthat節
2. 「S=物・事」

の場合、Vは「示す」と訳した方が多い

このルールから suggest は(その主語にあたる先行詞が attitude と「物・事」なので)「示す」と訳せば、合格ラインの和訳が出来上がります。

「彼らは女性は保護を必要とするということを示す[示唆する]ような、女性に対する従来の男たちの考え方を攻撃する」

㊸

ここは tendency が to不定詞を後ろにとって「～するという傾向」という意味になることがわかっていないと難しかったでしょう。

㊸「英文読解スマートリーディング LESSON BOOK」を持っている人は205ページを参照。

ただここでは to不定詞に for women という意味上の主語が付いているので、

tendency for A to do[願]～:Aが～するという傾向

と(A と to do[願]～が「主語と述語の関係」であることを活かして)まとめなければなりません。

㊸**LESSON BOOK REVIEW Rule-35** を参照せよ。

in society は挿入された前置詞句なので(tendency を修飾していますが)いったん()でくくってみてもよかったです。

それから be seen as 部分ですが、この see は see A as B の受け身ですね。「動詞+A as B」型の多くは「AをBと見なす」となります。

LESSON BOOK REVIEW Rule-26 8. を参照せよ。

本問はその受け身なので「～と見なされる」とまとめればいいでしょう。ただ as 以降が以下のような構造になっていたのがわかったでしょうか。

$$\sim \text{ to be seen as } \left\{ \begin{array}{c} \text{dependent on} \\ \text{or} \\ \text{secondary to} \end{array} \right\} \text{ men.}$$

dependent on と secondary to が or によって並列され、共通して men をその目的語に取っていました。

そうすると③は、「彼らは、女性が男性に依存しているあるいは従属していると見なされている一般的な社会の傾向[風潮]を批判する」と訳せます。

【全訳】

「男女同権論者は、女性は依然として社会の中で差別されていると言い[主張し]、そのような差別を終わらせる[差別の撤廃]を求めている。彼らは女性は保護を必要とするということを示す[示唆する]ような、女性に対する従来の男たちの考え方を攻撃する。彼らは、女性が男性に依存しているあるいは従属していると見なされている一般的な社会の傾向[風潮]を批判する」

ていた[働いていた]労働者たちが、いくつかの見慣れない外見[異様な形]の骨を発掘した」

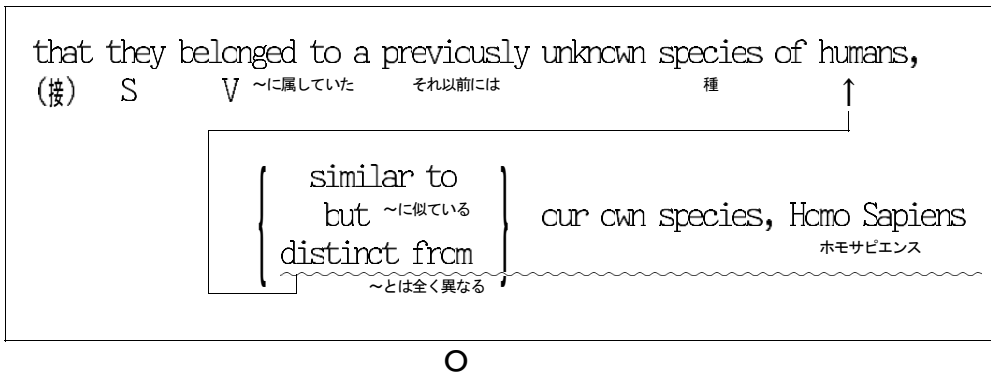
②

大枠としての骨組みは問題ないでしょう。Subsequent study がS(主語)、revealed がV(動詞)、直後の that節が全体としてO(目的語)で、第三文型(SVO)ですね。

Subsequent study revealed

Ⓢ

Ⓥ



○

ポイントとしては、similar to と distinct from が共通して our own species を目的語として取っていたことに気付いたかどうかでした。

🔍これに気付くには LESSON BOOK REVIEW Rule-11, Rule-12 を参照せよ。

それから our own species と Homo Sapiens は同格になっています。

reveal の意味(の読み取り)については、先程の4.の②の解説を参照してみてください。

そうすると②は、「その後の調査は、それらが現生人類であるホモサピエンスとは似てはいるが全く異なる、それ以前には知られていなかった人類の種に属するものであることを示した」と訳せます。

別解として以下のような訳し方をしてもかまいません。

「その後の調査は、それらがそれ以前には知られていなかった種の人類に属するものであり、現生人類即ちホモサピエンスとは似て異なるものであることを示した」

また同じく PartIV 1. で紹介した無生物主語構文の上手い訳し方を利用して、以下のようにまとめてもO.K.です。

「その後の調査によって、それらがそれ以前には知られていなかった種の人類に属するものであり、現生人類即ちホモサピエンスとは似て異なるものであることがわか

った」

【全訳】

「ドイツのデュッセルドルフのネアンダーバレーにある石灰岩の石切り場で作業をしていた〔働いていた〕労働者たちが、いくつかの見慣れない外見〔異様な形〕の骨を発掘した。その後の調査は、それらが現生人類であるホモサピエンスとは似てはいるが全く異なる、それ以前には知られていなかった人類の種に属するものであることを示した」

関係代名詞の2重限定。

(1)関係代名詞の2重限定とは

関係代名詞の2重限定とは、2つの(制限用法の)関係代名詞節が、**接続詞を伴わないで同じ先行詞を修飾する用法**を言います。

① 1つ目の関係代名詞は省略されることもある。

例を挙げてみましょう。

(ex) There are some people (that) I know who can write but not type.

上の英文では、(that) I know と who can write but no type という2つの関係代名詞節が、先行詞(some people)を共に修飾しています。

→ There are some people $\left\{ \begin{array}{l} \text{(that) I know} \\ \text{who can write but not type} \end{array} \right\}$.

上の英文を「二重限定」の意味をしっかりと出して日本語に表せば、以下のようになります。

「私が知っている人の中で[うちで]、(ペンで)字は書けるがタイプは打てないという人が何人かいます」

つまり「私が知っている」とまず一度限定しておいて、「(更にその知っている人の中で)ペンで文字は書けるがタイプは打てない」ともう一度(つまり二重に)限定しているわけです。

ちなみに以下の英文は、接続詞(and)で結ばれているので「二重限定」ではありません。

(ex) Joe is a man (whom) we can trust and who always lives up to our expectations.

ジョーは信頼できる男で、また常に我々の期待に応えてくれる男だ

(2)二重限定(の関係詞節)と、andで結ばれた関係詞節の区別とその違い。

二重限定の文では、**2つの関係詞節の後の方を省略したり、間に and を入れたると変な意味になることが多いのです。**

(ex) Ted is the only person (that) I know who has never been to a foreign country.

テッドは私の知っているの一人で、外国に行ったことのない唯一の人です

上の英文は、who 以下(つまり後半の関係詞節)を省略したり and を入れたりすると、「私はテッドという人しか知り合いがない」ということになってしまいます。これに対して and で結ばれているふつうの用法(つまり2重限定でない用法)の場合は、

- ①どちらか一方の関係詞節を省略しても文として成り立つ。
- ②2つの関係詞節の順序を入れ換えても意味は変わらない。

先程の英文を例にあげて考えてみると

Joe is a man whom we can trust.

Joe is a man who always lives up to our expectations.

Joe is a man who always lives up to our expectations and whom we can trust.

上記のどれも文として成り立ち、3つ目の英文については、元の英文と意味が変わりませんね。

(3) 2重限定の関係詞節のうまい訳し方。

2重限定の関係詞節のうまい訳し方は、

A(先行詞)+B(関係詞節)+C(関係詞節)

となる部分を

「Bである中で[うちで]、更にそのうちCである(ような)A」

「Bであり、かつCである(ような)A」

とまとめるといいでしょう。

練習問題を2つしてみましよう。

1. This is the novel that you can read easily which is both interesting and instructive.

《語句》

instructive:ためになる

both A and B:AとBの両方

2. The goal of the project is to break down the barriers that humans have built which allow us to treat non-human animals as objects and not as creatures with feelings.

(名古屋大)

《語句》

break down:打ち破る

treat A as B:AをBとして扱う

barrier:障壁

A not B:BではなくてA

object:物

feelings:感情

creature:生き物

【解答&解説】

1.この英文は簡単なので訳だけで十分でしょう。「これはあなたが簡単に読め、かつ面白くてためになる小説です」となります。

2.骨組みは、「そのプロジェクトの目的は、that以下であり、かつ which 以下のような障壁を打ち破ることです」となります。that節は「人間が作った」、which節は「人間以外の動物を、感情を持った動物としてではなく物として扱う」。これをまとめると、「そのプロジェクトの目的は、人間が作った障壁の中で、更にそのうち人間以外の動物を、感情を持った動物としてではなく物として扱う原因となっている障壁を打ち破ることです」となります。

④allow O to do[彫]~の訳出については [LESSON BOOK REVIEW Rule-23](#)
2.(2) をうまく利用するといいい。

6. ①It was only in 1900, 16 years after Mendel's death, that other researchers rediscovered Mendel's laws and realized that he had anticipated them. ②The history of biology could have been quite different had Darwin read Mendel's article, recognized that it provided a better theory of inheritance than his own, and incorporated it in future editions of his book.

(九州大)

《語句》 Mendel's law:メンデルの法則

anticipate:①～を期待[予想する] ②～に先行する、～の先を越す

article:①記事、論文 ②品物

recognize:～を認識する

theory of inheritance:遺伝の理論

incorporate:～を取り入れる、組み入れる

future edition:後の改訂版

【解答&解説】

①

PartIV 7. の解説で

It is[was] と that の間に「副詞(の仲間)」があったらそれは強調構文だとみて間違いありません。

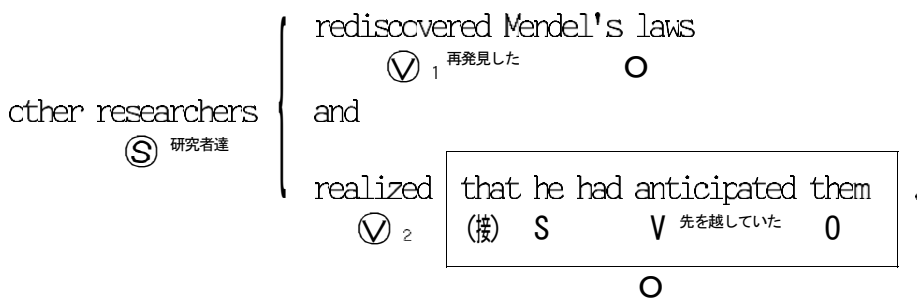
◎副詞(の仲間)とは、「副詞一語」「前置詞+名詞」「接続詞+S+V」。

と説明しました。①の英文は It was と that の間に only in 1900 という「前置詞+名詞」がありますから、瞬時に強調構文とわかります。16 years after Mendel's death という挿入句は in 1900 と同格です。

◎LESSON BOOK REVIEW Rule-61 2.(5) を参照せよ。

強調構文とわかれば It is[was] と that は()でくくってしまえばいいんですね。そうすると以下のような構造分析ができます。

only in 1900, 16 years after Mendel's death, //



具体的な訳出の仕方ですが、文末の them は other researchers を指しています。それから同じく PartIV 7. の解説に

強調されている語句が「only+語(句・節)」などの場合は、「～してはじめて(ようやく)…した」と、前から普通に訳せばいい。

とありました。このアドバイスに従って訳すと①はこんなふうになります。

「メンデルの死から16年後の1900年になって初めて、他の研究者達はメンデルの法則を再発見し、メンデルが彼らの先を越していたことに気付いたのだった」

realized は that節を目的語に取っています。「知る・わかる」型の動詞ですね。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.(1) を参照せよ。

②

ここは PartVI 4. の解説がヒントになります。

(1)主節に「助動詞の過去形」あるいは「助動詞の過去形+have+p.p.～」がある。

(2)?(クエスチョン・マーク)が文末にないのに、疑問文の語順になっている節が文中にある。

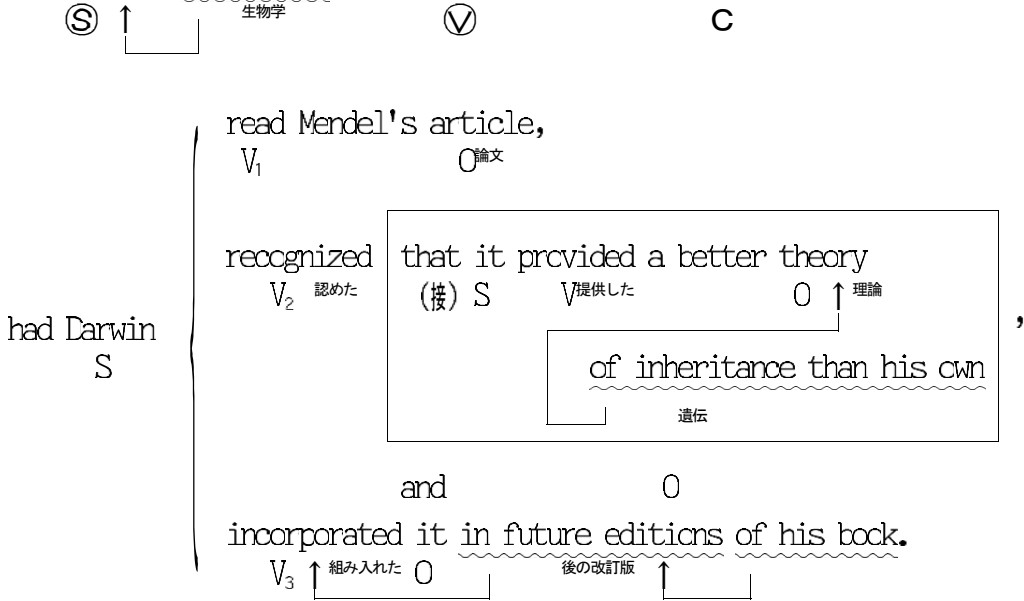
という2点が決め手となって、if の省略された仮定法であることに気付かなければなりませんでした。つまり had Darwin read Mendel's article～ は元々

⇒ if Darwin had read Mendel's article～

だったのです。

では全体の構造分析図を示してみましよう。

The history of biology could have been quite different



read と recognized と incorporated は A, B, and C の並列構造で、共に Darwin を S (主語) にとっています。

📖 LESSON BOOK REVIEW Rule-11 3. を参照せよ。

仮定法過去完了の訳し方については、Part V 1. の解説を参照してみてください。そうすると②は、こんなふうになります。

「もしダーウィンがメンデルの論文を読み、それが自身のものより優れた遺伝の理論を提供していることを認め、(それを)自分の本の後の改訂版に組み入れていたならば、生物学の歴史は全く異なったものになり得(てい)ただろう」

【全訳】

「メンデルの死から16年後の1900年になって初めて、他の研究者達はメンデルの法則を再発見し、メンデルが彼らの先を越していたことに気付いたのだった。もしダーウィンがメンデルの論文を読み、それが自身のものより優れた遺伝の理論を提供していることを認め、(それを)自分の本の後の改訂版に組み入れていたならば、生物学の歴史は全く異なったものになり得(てい)ただろう」

7. ①Capitalism is the most successful wealth-creating economic system that the world has ever known; no other system, as the distinguished economist Joseph Schumpeter pointed out, has benefited "the common people" as much. ②He observed that capitalism creates wealth through advancing continuously to ever higher levels of productivity and technology; this process requires that the "old" be destroyed before the "new" can take over.

(中央大法)

《語句》 capitalism:資本主義
 distinguished:著名な
 point out:指摘する
 benefit:恩恵をもたらす
 advance:進む
 productivity:生産性
 take over:取って代わる

【解答&解説】

①

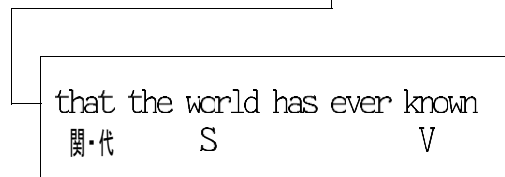
まず文頭から known までは、語句さえわかればさして問題なかったでしょう。that は関係代名詞で、that ~ known は直前の名詞(economic system)を修飾しています。

Capitalism is the most successful wealth-creating economic system

⑤

⑥

C ↑



そうするとこの部分はこんなふうになります。

「資本主義は、世界がこれまでに知った(中で)最もよく[うまく]富を生み出す経済システム[体制]である」

次に no other ~ as much までですが、まずカンマで区切られた挿入部分を除いた

(骨組み)部分の構造を示してみましょう。

no other system has benefited "the common people" as much.

⑤

⑥

○

文末の as much ですが、これはこの後に本来あった as+名詞 が省略されていると見るとういでしょう。ということは LESSON BOOK REVIEW Rule-54 2. が使えますね。ただ「今ほど」を補っても意味不明なので、ここは「これほど」を補ってあげるといでしょう。「これほど」の「これ」は、資本主義を指しています。そうするとこの部分は「これほど一般の人々に恩恵をもたらしたシステム(体制)は他になかった」となります。

次に先程一旦()でくくった as ~ point cut 部分ですが、as S+V~ となる as の見極め法として LESSON BOOK REVIEW 85ページ(注2)にこうあります。

asが「様態(～のように・～だが)」を表す場合は、asの後ろには「不完全な文」や「直前と同じ形の繰り返し(の文)」がくることが大半。

本問の as も、節内の動詞 point cut は本来他動詞で目的語を必要とするはずなのにそれ(目的語)がありません。つまり不完全な文構造と言えます。そこでこの as は「～のように・～だが」と訳せばいいとわかります。

as the distinguished economist Joseph Schumpeter pointed out
S V A

それから the distinguished economist と Joseph Schumpeter は同格関係です。そうするとこの部分は「著名な経済学者であるジョセフ・シュンペーターが指摘しているように(指摘していることだが)」とするとういでしょう(distinguished は good型の形容詞。LESSON BOOK REVIEW Rule-68 を参照せよ)。

では①の訳をまとめてみましょう。

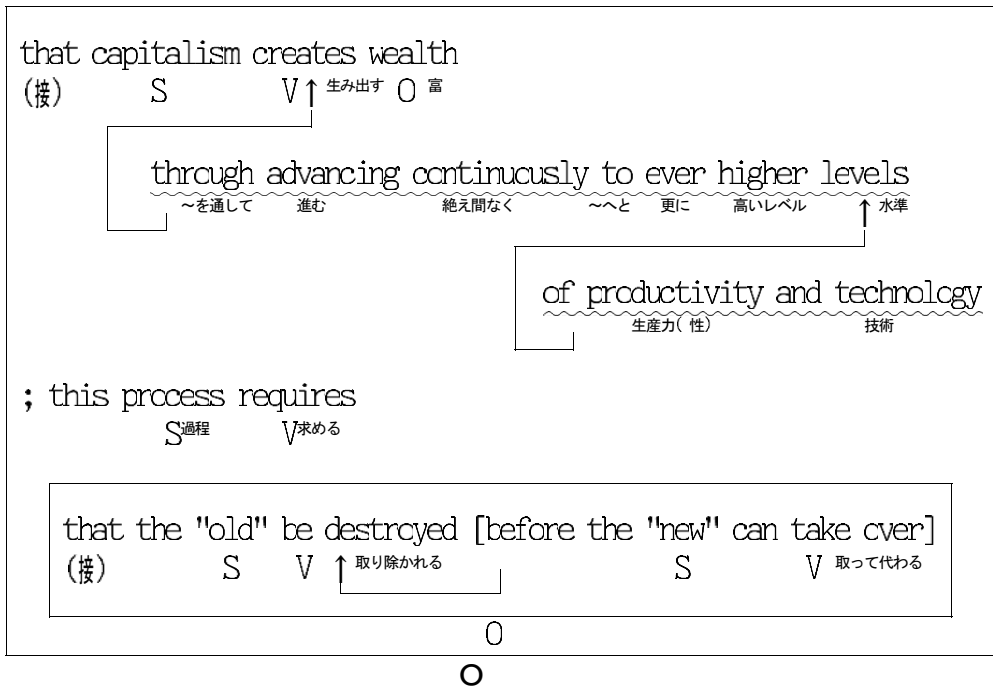
「資本主義は、世界がこれまでに知った(中で)最もよく[うまく]富を生み出す経済システム[体制]である。著名な経済学者であるジョセフ・シュンペーターが指摘しているように[指摘していることだが]、これほど一般の人々に恩恵をもたらしたシステム[体制]は他になかった」

②

全体の構造は、He がS(主語)、observed がV(動詞)、直後の that節がO(目的語)の第三文型(SVO)です。

He observed

㊦ ㊧



observed は that節を目的語に取っています。LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.(1) を使って、ここは「言った」と訳せばいいでしょう。

㊦ ㊧ 実際 observe は that節を目的語に取る場合、「言う、述べる」という意味になる。

ever higher の ever ですが、比較級の前に置かれた ever は(先程の「これまで(で)」とは異なり)「更に、いっそう」と訳します。セミコロン(;)は and の代用と見て「そして」と訳せばいいでしょう。

㊦ ㊧ 英文中のセミコロンは接続詞の代用か、「つまり」「即ち」と訳す同格を示す記号となるかのいずれかのことが多い。LESSON BOOK REVIEW Rule-63 を参照せよ。

それから the old と the new については、Part I 6. の解説が参考になりますね。ここは「古いもの」「新しいもの」と訳せばいいでしょう。そうすると㊦はこのようになるでしょう。

「資本主義は更に高い水準の生産力と技術へと向かって絶え間なく前進することを通して富を生み出し、この過程においては、新しいものが取って代わりうる前に古いものが取り除かれる[淘汰される]ことが求められると彼は言った」

㊦ 《課外授業14》の最後で「能動態でも受け身的に訳した方が良いことも(少例だ

がある」と言ったが、それが今回の requires 以下だったと言えるだろう。

【全訳】

「資本主義は、世界がこれまでに知った(中で)最もよく[うまく]富を生み出す経済システム[体制]である。著名な経済学者であるジョセフ・シュンペーターが指摘しているように[指摘していることだが]、これほど一般の人々に恩恵をもたらしたシステム[体制]は他になかった。資本主義は更に高い水準の生産力と技術へと向かって絶え間なく前進することを通して富を生み出し、この過程においては、新しいものが取って代わりうる前に古いものが取り除かれる[淘汰される]ことが求められると彼は言った」

8. ①Some people still persist in a view of the natural world and its inhabitants as having no other value than to serve humans as tools, objects, and resources. ②This approach is very different from that of indigenous people who recognize no such hierarchy and do not see a separating wall between humans and the animal and plant kingdoms.

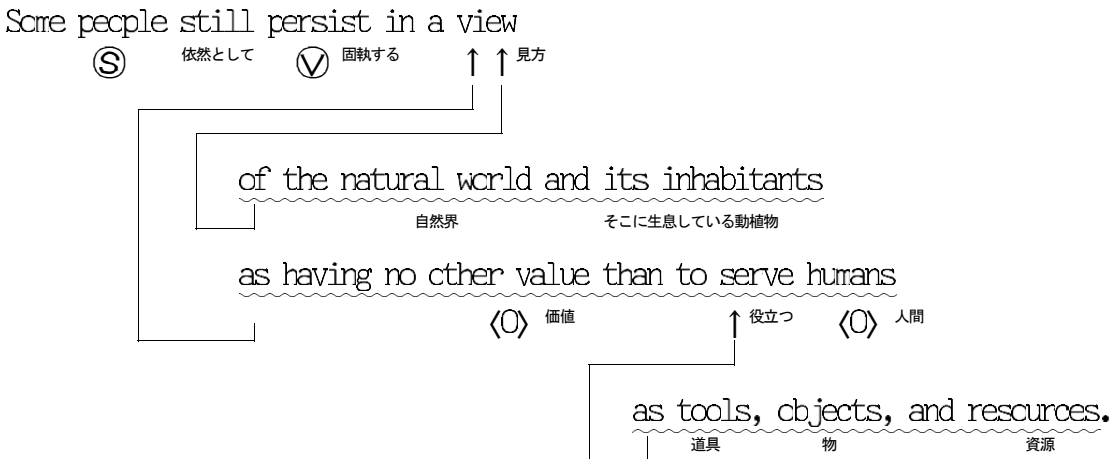
(大阪大)

- 《語句》 persist in A: Aに固執する
 inhabitant: ①住民 ②(ある地域に生息する)動物・植物
 serve: ~の為に尽くす、役立つ
 resource: 資源
 indigenous: 先(源)住民の
 recognize: ~を認識する、認める
 hierarchy: 階層、上下関係、序列
 kingdom: ①王国 ②~(世界)

【解答&解説】

①

まずは構造分析図を示してみましょう。



view of A as B となっている部分については、この of を目的格ととらえ、

view the natural world and its inhabitants as having no other value...
(他) ○(A) (B)

と読み換えてしまうといいいでしょう。そうすると「動詞+A as B」型は「AをBと見なす」が基本ですから(LESSON BOOK REVIEW Rule-26 8.を参照せよ)、「自然界とそこに生息する動植物は、than 以下より他の何の価値も持たないと見なす(こと)」とまとめてしまえばいいのです。それから having no other value than to serve humans 部分について、こんな和訳のルールがあります。

英語の否定語は、なるべく述語(動詞など)部分を否定するように和訳するとい
いことが多い

いくつか具体例をあげてみましょう。

(ex) Little was done to help the children by them.

この英文を「ほとんどないことがなされた」と訳しては意味不明です。was done を否定するようにして「子供たちを助けるのに彼らはほとんど手を貸さなかった」とまとめるといい和訳になりますね。もう一例見てみましょう。

(ex) Little is known about what happened to them.

この英文も、is known を否定するようにして「彼らに何が起きたかは、ほとんど知られていない」とまとめるといい和訳になります。

そこで本問の having no other value than to serve humans も、having を否定するようにして、「人間の為に尽くす(人間に役立つ)より他の何の価値も持たない」と先程訳したわけです。

as tools, objects, and resources の as は前置詞で「～として」と訳し、この部分は serve を修飾する副詞句と見るといいでしょう。

そうすると①はこんなふうになります。

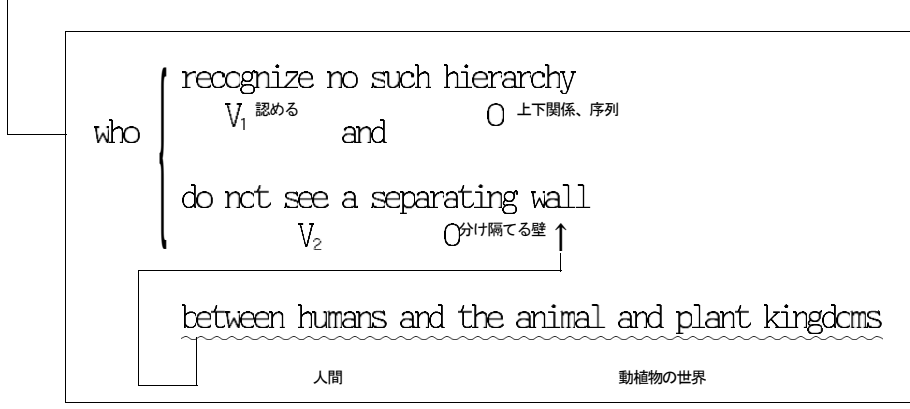
「自然界とそこに生息する動植物は、道具、物、資源として人間の為に役立つ以外何の価値も持たないとする見方[見なすこと]に、依然として固執する人達もいる」

②

まずはここも構造分析図を示してみましょう。

This approach is very different from that of indigenous people

⑤ ⑥ C ~とは異なる ↑ 先住民 ↑

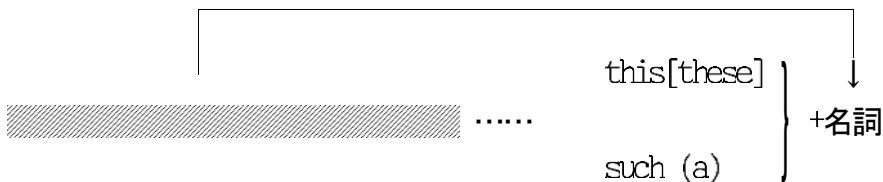


from の後の that は「the+既出の単数名詞」の代用で、ここでは the approach を指しています。

それからこの英文中には approach, indigenous, hierarchy という3つの訳しづらい語があります。このうち indigenous については知らなきゃどうしようもないとして、approach と hierarchy はなんとか類推が可能ですが、こんなルールが実はあるのです。

this[these] や such (a) の付いた名詞は、直前の内容を一言で抽象的に言い換えたもの。その名詞の意味がわからなかったら、直前の内容をその名詞に当てはめて[はめ込んで]文全体の訳をまとめてしまえばいい

直前でその名詞が指しているであろう内容をそこにはめ込んで意味を取る。



そこで this approach , such hierarchy は共に「自然界とそこに生息する動植物は、道具、物、資源として人間の為に役立つ以外、何の価値も持たないとする見方(またそのような上限関係)」を指していると見ると、何とか訳がまとまりそうです。

そうすると②はこんなふうになります。

「このような[自然界とそこに生息する動植物は、道具、物、資源として人間の為に役立つ以外、何の価値も持たないとする]見方は、そのような上下関係を認めず、人間と動植物の世界を分け隔てる壁を見ようとしない[壁があるとは見なさない]先住民のそれとは非常に異なっている」

【全訳】

「自然界とそこに生息する動植物は、道具、物、資源として人間の為に役立つ以外、何の価値も持たないとする見方〔見なすこと〕に、依然として固執する人達もいる。このような「自然界とそこに生息する動植物は、道具、物、資源として人間の為に役立つ以外、何の価値も持たないとする」見方は、そのような上下関係を認めず、人間と動植物の世界を分け隔てる壁を見ようとしなない〔壁があるとは見なさない〕先住民のそれとは非常に異なっている」

9. ①There are historians and others who would like to make a neat division between "historical facts" and "values." ②The trouble is that values even enter into what count as facts – there is a big leap involved in moving from "raw data" to judgment of fact. ③More important, one finds that the more complex and multi-levelled the history is, and the more important the issues it raises for today, the less it is possible to sustain a fact-value division.

(京都大)

《語句》 make a neat division:きちんと区別する(分ける)

The trouble is that S+V~:困ったことには~だ

會本問については「困るのは~だ」くらいの訳でまとめた方がいい。

values:価値観

enter into A:Aに入り込む

會enter A(具体的な場所)で「Aに入る」。enter into AのAには「仕事・作業」といった抽象的な物事が入る。

count as A:Aと見なされる

leap:飛躍

A is involved in B:BにはAが含まれている

raw data:生の資料

(文頭の)More important:更に重要なことには(は) =More importantly

complex:複雑な

multi-levelled:多重構造の

issue:問題

raise:①~を上げる ②(問題等を)提起する

sustain:~を維持する、保つ

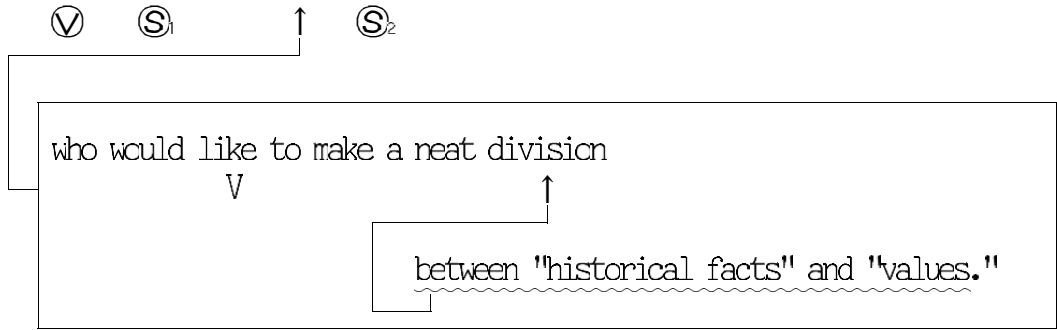
a fact-value division:事実と価値観との区別

【解答&解説】

①

ここは単語さえわかれば、さして問題なかったでしょう。一応構造分析図を示しておきます。

There are historians and others



そうすると①はこんなふうになります。

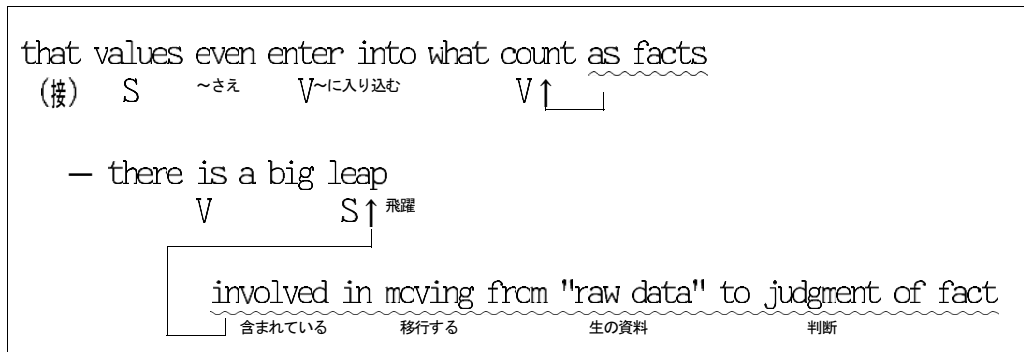
「歴史学者やその他の人達には、「歴史的事実」と「歴史的価値観」とをきちんと分けたがる人がいる」

②

まずはここも構造分析図を示してみましょう。

The trouble is

Ⓢ Ⓥ



C

what count as facts は「何が事実と見なされるか」と訳せばいいでしょう。

この what は関係代名詞的に「こと・もの」と訳さない方がいい。このように what を「こと・もの」「何」のどちらで訳すかは、多くの場合文脈判断となる。

そうすると values ~ facts までは「何が事実と見なされるかということにさえ価値観が入り込むのだ」となります。enter into は「S+V into ~」型。LESSON BOOK REVIEW 65ページ(2)から、「~の中に入る」型と類推できれば訳せるはず。

facts 直後のダッシュ(-)は「即ち」と訳せばいいでしょう。

LESSON BOOK REVIEW Rule-65 を参照せよ。

there is a big leap involved in~ については LESSON BOOK REVIEW Rule-44 が利用できます。こんなルールでした。

「There is ㊟ +分詞~」となる場合は「㊟は(が)~している(される)」と訳す
といい(つまり㊟と分詞~の間には「主語と述語の意味関係」が成立している)

そうするとこの部分も「大きな飛躍が~には含まれている」と、a big leap と involved の間に主語と述語の関係が成立していることを意識して訳せばいいのです。それから judgment of fact の of は目的格と判断し、この部分は

⇒ judge fact 事実を判断する
V O

と読み換えてみるとよかったですよ。

②全体はこんなふうになります。

「困るのは、何が事実と見なされるかということにさえ価値観が入り込むということだ。即ち、「生の資料」から事実を判断することに至るまでには、大きな飛躍が含まれるのだ」

③

More important は字面的には形容詞ですが、「更に重要なことには」という意味で(決まり文句的に用いる)副詞句です。

④ ㊟ 要するに What is more important の短縮形。「英文読解スマートリーディング LESSON BOOK」を持っている人は209ページを参照。

そうするとこの英文のS(主語)は one、V(動詞)は finds で、直後の that節がO(目的語)になっています。骨組みは「更に重要なことには、that以下のことがわかるのである」となります。

④ one は「一般の人」を指しており、和訳に出さなくてもいい。

問題は that節内の和訳ですね。ここは「~すればするほどそれだけいっそう…」という the+比較級の構文で書かれていますが、the+比較級が3つあります。《課外授業15》でも言いましたが、

「The+比較級 S+V~」の部分が3つあった場合には、and のない方が前後半の切れ目とみなす。

のでした。本問ではそうすると today と the less の間が前後半の切れ目ということになりますね。

それから the more important the issues it raises for today 部分は、the+比較級 S となっていてVがありません。こういう場合は be動詞(もしくは become)を補うのでしたね。それから the issues it raises for today は「名詞 S+V」の構造です。it ~today を issues にかけて訳さないといけません。

⊕LESSON BOOK REVIEW Rule-52 を参照せよ。

したがって

the more important the issues [it raises for today] **is**
S(名) ↑ S V V

「それ(=歴史)が今日に対して提起する問題が重要なものであればあるほど」

と(is を補って)ここを訳します。

⊕「(問題などを)提起する」という raise はよく使われるので覚えておこう。

the less it is possible to sustain a fact-value division についてですが、英文中の多くで、less ≒ not と考えると和訳がスムーズになります。

⊕特に less が形容詞・副詞を修飾している場合。

ここも「それだけいっそう事実と価値観の区別を維持するのが可能でなくなる → できなくなる」と訳せばいいでしょう。

⊕語尾が -tain で終わる動詞の多くは keep で言い換えられる(sustain も「維持する」で keep で言い換え可能)。例外は obtain(手に入れる)、attain(①手に入れる ②成し遂げる)くらい。

さあでは③全体をまとめてみましょう。

「更に重要なことに、その歴史が複雑であり多重構造をしていなければならないほど、またその歴史が今日[現代]に対して提起する問題が重要であればあるほど、事実と価値観との区別を維持することができなく[難しく]なるのである」

⊕find は本問の場合、あえて和訳に出さない方が自然な訳になるだろう。

【全訳】

「歴史学者やその他の人達には、「歴史的事実」と「歴史的価値観」とをきちんと分けたがる人がいる。困るのは、何が事実と見なされるかということにさえ価値観が入り込むということだ。即ち、「生の資料」から事実を判断することに至るまでには、大きな飛躍が含まれるのだ。更に重要なことに、その歴史が複雑であり多重構造をしていなければならないほど、またその歴史が今日〔現代〕に対して提起する問題が重要であればあるほど、事実と価値観との区別を維持することができなく〔難しく〕なるのである」

10. ①Whether there is a connection between enthusiasm for the crossword and the 1930s boom in detective fiction, with its obvious puzzle-solving appeal, can only be guessed at. ②More certainly, the crossword encouraged a widespread interest in words. ③From their newspapers, readers were thus sent hurrying to dictionaries, which libraries complained they had repeatedly to replace because they were being roughly handled or even stolen by crossword lovers.

(東京大)

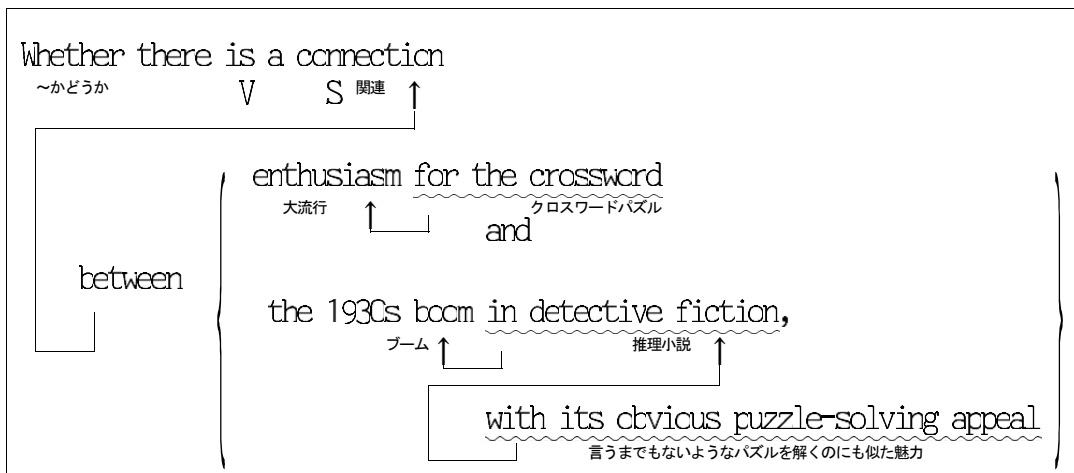
《語句》 connection: 関連、つながり
enthusiasm: 熱狂、大流行
crossword: クロスワードパズル
detective fiction: 推理小説、探偵小説
obvious: 明らか、言うまでもないような
puzzle-solving: パズルを解くような
appeal: 魅力
guess at A: Aを推測する、言い当てる
encourage: ~を助長する、促す
widespread: 広範囲な
complain (that) S+V ~: ~だと不平を言う(こぼす)
replace: ~を取り替える
roughly: 乱暴に
handle: ~を扱う
steal - stole - stolen: ~を盗む

【解答&解説】

①

文頭の Whether節の見極めはもう大丈夫ですか？ まだ不安な人は、もう一度 **LESSON BOOK REVIEW Rule-59** を見てみてください。本問は、Whether節の後ろに can~be guessed というV(動詞)が見つかるので、Whether節は「~かどうか」と訳せばいいのです。

構造分析図を示してみましよう。



㉑

can only be guessed at.

㉒

with は having で言い換えられる「~を持っている」という意味で、with ~ appeal は detective fiction を修飾する形容詞句と見ればいいでしょう。
 can only be guessed at は「推測されうるにすぎない → 推測の域を出ない」と訳せばいいでしょう。

そうすると㉑はこんなふうになります。

「クロスワードパズルの大流行と、言うまでもないようなパズルを解くのにも似た魅力を持つ推理小説の1930年代におけるブームとの間に関係があるかどうかは、推測の域を出ない」

㉒ can only be guessed at の直訳は「推測されうるのみだ[に過ぎない]」。

㉓

ここは PartIV 10. のルールを利用して、文頭の副詞句を more certain と形容詞化し、全体を仮主語構文に変換してみるとよかったです。

⇒ It is more certain that the crcssword encouraged a widespread interest

S V促す 広範囲な 0 ↑ 関心

in words.
 言葉に対する

そうすると㉓はこんなふうになります。

「クロスワードパズルが言葉に対する広範囲な関心(の高まり)を促したことはより確か(なこと)である」

③

まず From ~ replace までですが、V(動詞)の sent は受け身で、能動態に直せば、

sent readers hurrying to dictionaries

ⓧ ○ C

だったはずですが。これは send という、知覚動詞でも思考動詞でもない動詞が作るSVO C構文ですね。ならば LESSON BOOK REVIEW Rule-23 2.(2) が使えます。そのような動詞が作るSVO Cは

「Sが原因となって(Sのおかげで・せい/Sによって)、結果としてOはCする」

で訳せてしまえるんですね。

そうするとここは「(結果として)読者は辞書へと急ぐ」となります。本問はこの受け身なので、**「読者は辞書へと急がされる → 辞書へと急ぐ[急いで向かう]」**と訳せばいいのです。、which 部分は、Part V 1. の解説にあったように、

(1)which の手前で一旦区切り

(2)「そして(しかし、というのは)」くらいのつなぎ語を補って

(3)which に先行詞(dictionaries)を代入して

訳をまとめればいいでしょう。

そうするとこうなります。

「読者は新聞から辞書へと急ぎ(向かい)、そして図書館は辞書を何度も取り替えなければならぬと不平をこぼしたのである」

ⓧcomplain は「言う」型の動詞。LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.(1) を参照。

最後に because ~ lovers までですが、ここは語句の意味さえわかればさして問題なかったでしょう。they は dictionaries を指しています。

「というのはクロスワードパズルの愛好者によって辞書が乱暴に扱われたり、盗まれたりさえしたからである」

【全訳】

「クロスワードパズルの大流行と、言うまでもないようなパズルを解くのに似た魅力を持つ推理小説の¹⁹³⁰年代におけるブームとの間に関連があるかどうかは、推測の域を出ない。クロスワードパズルが言葉に対する広範囲な関心(の高まり)を促したことはより確か(なこと)である。読者は新聞から辞書へと急ぎ(向かい)、そして図書館は辞書を何度も取り替えなければならぬと不平をこぼしたのである。というのはクロスワードパズルの愛好者によって辞書が乱暴に扱われたり、盗まれたりさえしたからである」

単なる構造分析・品詞分解から真の読解へと飛躍するためのアドバイス

1. 英語は否定して終わることはない。

「〇〇政権は駄目だ」「××はやめなければならぬ」「△△は違う」

といった、あるものを「否定」した形で文が終わってしまうことは(特に評論文では)英語ではほとんどありません。

なぜなら英語は「論証責任」を要求する言語だからです。あるもの否定した場合、「なぜ駄目なのか」ということを、論理的、客観的に証明することが求められるのです。

言い方を変えれば「英語は言いつ放しは許されない」のです(読者の「なぜ(そう言えるの)?」に必ず論理的な証拠を提示しなければならない)。

ですから別に否定に限らず、

「私は～だと思う」「～だと信じる」「〇〇は～すべきだ」

といった「主観(=主張)」を述べただけで英文が終わることもありません。それをサポート(論証)する、「客観(=論拠・具体例)」が必ず必要になるのです。

したがって読者の側は、英文中で筆者の「主観」を表す内容が現れたら、その後に「論拠(理由)」「具体例」といった「客観」が続くことを予想してその後を読まなければなりません。「主観」と「客観」は常にセットで現れる。そうしておくといいでしょう。英語、特に評論文というのは、このように主観と客観の繰り返しで成り立っているといっても過言ではありません。

2. 「主観(=主張)」の直後のそれとは真逆の内容 = 譲歩。

英文(特に評論文系)を読んでいると、「主観(=主張)」の後に、それとは真逆の内容が現れることが時々あります。そのような展開に出会ったら、その部分は(主張に客観性を増すために付け加えられた)「譲歩」だと思いたらいいでしょう。理解しやすいように日本語で例を挙げてみましょう。

「原発は即時撤廃すべきだ。原発は我々に便利さ、豊かさを与えて

くれている。原発の与えてくれる恵みが無くなることは、ある意味現代の豊かさの終わりを意味するかもしれない。しかし、それでも今回の震災に絡んだ原発事故の影響の大きさを考えると、原発の即時撤廃こそが、我々にとって正しい選択であると思うのだ」

この例でも、波線を引いた「譲歩」部分は「原発は即時撤廃すべきだ」という「主観(=主張)」に(原発がもたらしてくれる恩恵、そしてそれを撤廃した際に我々が払わなければならない代償がどんなものかは、筆者は重々承知していますよ という)客観性を増す効果を出しています。そしてこの例のように、「譲歩」が終わって再び「主観(=主張)」に戻る際には、往々にして「逆接の論理マーカー」がそこに置かれるものです。したがって読者の側は、「逆接の論理マーカー」が現れたら、「これで譲歩は終了。ここから主観(=主張)に戻るのだろう」と予測を立てることができるのです。

3.日本語を読むように英語を読む。

日本語の文章で以下のような文があったとします。

「純粋に数字だけを見れば、日本人の平均所得は過去30年間で5倍になっています」

さて、このあとにどんな展開が予測できますか？

そうです。「日本人の平均所得は過去30年間で5倍になっています」という内容に対する逆接的な展開を容易に予想できますね。

「しかしながら実質所得の点では、決してそうはなっていないのです」

「しかしながら実質所得の点から見れば、逆に30年前と比べてかえって下がっているのです」

といったような。

つまり「純粋に数字だけを見れば」というフレーズは、その直後に述べられる数字[事実]に対する逆接的な内容・展開がその後が続くことが予想できるわけです。

ところが以下の英文で、同じような展開をパッと予想することができない(ただ品詞分解をして英文を日本語に和訳しているだけの)学生がとても多いのです。

In sheer numbers, the number of persons engaged in Japan has begun to increase after Lehman's fall.

単純に数字だけを見れば、リーマンショック後、日本の就業者数は増加し始めている

実際、この英文の後には、以下のような内容が続きます。

In spite of the numbers, a lot of economists comment that the Japanese economy doesn't yet seem ready to emerge from its lethargy.

このような数字(の増加)にもかかわらず、多くの経済学者たちは、日本経済はいまだその沈滞状態から抜け出す準備が整っていないようだと言評している

このような展開を、In sheer numbersを見た瞬間に予想し、その確認作業としてその後の英文に目を通す(実際その予想は的確に当たる)読者と、そんなこと全く考えずにただただ「S、V、O、C、M、P → 〈O〉 ◎…」といった記号を振ることだけが頼りの読者では、どちらが速読、そして速解の力を身に付けられるでしょうか。それはもう自明の理ですね。

日本語の文章の「読み」において、普通に行っている「予測」を、英文を読む際にも「普通に」行えるような目線が、君の速読に更に磨きをかけてくれることでしょう。

